

江戸川の稚アユ救出作戦 参加報告

1. 救出作戦概要

日時：2005年4月17日（日）

場所：江戸川水門

主催：利根川江戸川流域ネットワーク(TON-E-DO ネット)

(様々な団体から構成されています。)

後援、協力：国交省江戸川河川事務所、市川市教育委員会

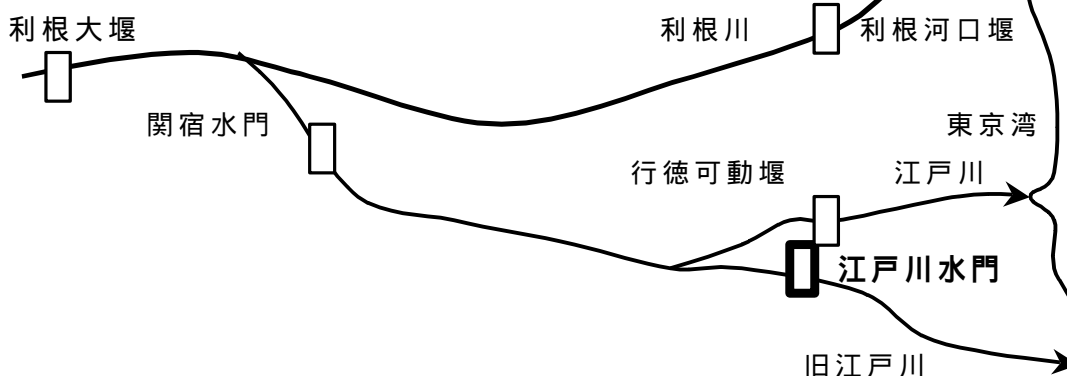
今回の活動：東京湾で育ったアユの稚魚が江戸川を遡上するのに障害となっている“江戸川水門”の下流で稚アユを捕獲し、水門の上流にバケツリレーで放流する。

主催団体の活動目的：川が氾濫しないよう配慮しながら、江戸川をはじめその下流部に広がる東京湾や上流部に広がる利根川の姿を昔のように美しい姿に戻し、それと同時に昔のように沢山の生き物達が元気良く生きられる川に復元して行くことを目的にする。

参加人数：約70名

本会からの参加：狩野丑松、堂前明広、福田睦夫

【江戸川の周辺概要】



行徳可動堰：洪水時以外は常時閉鎖。

江戸川水門：河川の水量が増加したときだけ開く。春先のアユの遡上時期は川の流量が少なく、閉鎖していることが多いため、アユが遡上できないことが多いので、汲み上げの必要性が高い。

2. 救出作戦参加して

(1) 水門が開いていたが・・・

なんと、雪解け水が今年が多いため水門の一部が開いていました。当日は採捕した稚アユの数が少なかったのですが、何とかバケツリレーが行えました。当日の水門の上下流の水位差は約0.8mで、開いた水門の下を通過する水の流れは流速約2.4m/sぐらいと推定されました。

稚アユの運動能力は1.5m/s程度の流れまでしか遡上出来ませんので、

推測ですが、水流が瞬間的に緩くなった時にしか稚アユは遡上できないでしょう。水位差が0.3mになれば遡上可能です。

(2) 水門の下流は“釣り人”で混雑！！

東京都も千葉県も5月31日までアユは禁漁ですが、何と堰周辺には釣り人が数十人集まって、稚アユを次々に釣り上げていました。上手な人は一日に1200匹も釣るそうです。釣り禁止の張り紙はありますが、正々堂々と釣りが行われています。信じがたい光景です。釣りに較べれば3羽のカワウは可愛いものです。

(3) 稚アユ

全長が約9cm程度の東京湾育ちの美形アユが沢山いました。堰の下流では群れが黒く見えることもあります。

(4) 日本一のアユを取り戻す会との交流

双方の会ともに、下流県と上流県で情報交換等を今後行いたいと意見が一致しました。江戸川遡上アユを群馬の特定河川に試験放流する案や江戸川水門や利根大堰に対して、アユをはじめとする生き物に配慮してもらうことなどが当面の情報交換テーマになるかも知れません。

(救出作戦の看板)



(開会時に集まった人たち)





稚アユ（全長約 9cm）



バケツで堰の上流へ放流



江戸川水門を上流側から見る

当日はゲート3門が、小さな開度で開けられていた。この他に閘門が1基右岸側にある。小さくて分り難いが、遠くに行徳可動堰が見える。



禁漁期間であるが、堰直下流の橋や左岸側で稚アユ釣りが行われている。
4月はじめから釣れ始めたそうです。



小さなクラ - に半分くらい稚アユが入っている人もいます。
 $70 \text{人} \times 500 \text{匹} \times 5\text{gr} = 175\text{kg} / 1 \text{日} \quad (?)$
一度に数匹掛る事もよくあります。

(あしがき)

当日は「群馬の遊魚連絡協議会」と日程が重なりましたが、最下流の稚アユ事情を直接見ることができ、また1月に開催された第二回フォーラムに参加してくれたTON-E-DO ネットの方々と意見交換が出来、有意義でした。

(報告者：福田睦夫)